

いまいずみ いま え も ん

「今泉今右衛門講演会と

日本工芸会×飛鳥クルーズ作品展」

人間国宝・今泉今右衛門氏の講演会と

「飛鳥Ⅱ」に展示された伝統工芸作品展を開催。

「飛鳥Ⅱ」で展示された 伝統工芸作品が福岡に

このたび、FFG（福岡銀行・熊本銀行）は、日本が誇る伝統工芸を守り、未来に残していくために、私たちが掲げる地域創生やSDGs・ESG活動にもつながる企画として、アンカー・シップ・パートナーズ株式会社（以下、アンカー・シップ・パートナーズ）が主催した「今泉今右衛門講演会と日本工芸会×飛鳥クルーズ作品展」に協賛しました。

「今泉今右衛門講演会」は2月13日（火）に福岡大名のザ・リッツ・カールトンホテルにて、「日本工芸会作品展」は同13日（火）～17日（土）に隣接する福岡大名ガーデンシティ・テラス「GROWTH」で開催されました。



今泉今右衛門氏の作品



アンカー・シップ・パートナーズ 篠田社長

日本工芸会は、重要無形文化財保持者（人間国宝）を中心に、陶芸や染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の伝統工芸作家、技術者などによって組織されます。総裁は佳子内親王殿下が務められ、正会員数は1200名（うち人間国宝50数名）にもぼり、国内最大の作家団体となっています。

その日本工芸会と大型クルーズ船「飛鳥Ⅱ」を運航する「郵船クルーズ株式会社」の主要株主「アンカー・シップ・パートナーズ」は、わが国の数百年・千年以上続く伝統文化を残し、発展することを目的に、2021年に連携を発表しました。その後、2022年から「日本工芸会×飛鳥クルーズ」と題して「飛鳥Ⅱ」の船内にて展示販売を開始。人間国宝らによる選りすぐりの逸品の数々が見られるとあって、大変好評を得ています。

人間国宝が語る

有田焼の400年の歴史

講演会では、まずアンカー・シップ・パートナーズ代表取締役社長篠田哲郎氏しのだてつろうが登壇し、「事の始まりは、日本が誇る伝統工芸文化を船に乗せたいと今泉今右衛門先生に相談したことでした。これまで2年間、地球を3周するほどの船旅をしながら、150点ほどを船内にて展示販売してきました。これらの作品をもっと多くの方に見ていただきたいと、今回はふくおかフィナンシャルグループのご協力での機会を得ることができました。今後連携して、日本の伝統工芸を盛り上げていきたいと思っています」と、ご挨拶されました。

続いて、人間国宝であり、日本工芸会の副理事長を務める十四代今泉今右衛門氏が登壇。「有田焼は、伊万里を積み出し港としてヨーロッパに向けて輸出されてきました。当初は全てヨーロッパからの注文によって形や絵柄が決められていましたが、江戸中期になると日本国内からも注文が増えるなど、時代のニーズに合わせて作られてきた歴史があります」と、約400年前に誕生し、欧米でも高く評価されてきた有田焼の歴史や鍋島藩の献上品として重用された色鍋島についてお話しいただきました。



講演会の様子



今泉今右衛門氏の講演



飛鳥Ⅱ船内での展示作品

色鍋島の伝統を現代に

十四代続く今右衛門窯の歴史

次にお話いただいたのは、江戸時代から370年もの「色鍋島」の技術を継承し、重要無形文化財「色絵磁器」で高く評価されている今右衛門窯。そして、十四代今泉今右衛門氏自身の作品づくりについてです。

中でも十四代の名を広く知らしめている「墨はじき」の仲間がかかる技法を生み出した経緯については、どのような発想と技術で生み出されたものなのか、絵柄とともに詳しく語っていただきます。「今右衛門家では、もともととは

色鍋島の上絵付けだけを受け持ち、一子相伝の技法として受け継いでいました。特に元禄時代の豪華絢爛な時代に重宝されてきました」

しかし、明治時代になるとニーズが次第に変わり、十代、十一代、十二代は技法を守るのに大変苦労したそうです。「十三代は、伝統工芸というのは現代の人に向けた新しいものでなければならぬという考えがありました。そこで生まれたのが『薄墨』といわれるグレーの色を吹きつける技術でした」。照明が明るくなった現代においては、逆にこの落ち着いたグレーの色合いが新鮮に見えると高く評価され、「伝統工芸とは人々の暮らしに応じて変化するものであることを実感した」とお話しくださいました。

花や雪などをモチーフに

新たな「墨はじき」が誕生

今泉氏は、大学を卒業し、福岡で就職後、有田へと戻ります。「江戸時代から『墨はじき』という技法がありました。これは墨で描いた文様が素焼きの窯で焼くと、墨が焼き飛び白抜き文様となる技法です。私は、この技法をさらに進化させようと試行錯誤してきました」



飛鳥Ⅱ船内での展示作品

この技法を活かし、花や雪の結晶などをモチーフにした独自の作風が生まれたことで、今泉氏は日本工芸展で入賞を果たします。「この墨はじきの技法を用いて様々な作品を生み出してきましたが、自分だけの考えでは先細りになってしまいます。いろんな方のアイデアも取り入れることで、作品が変化してきたと思います」。一つひとつの作品を文様がいかにかに生まれてきたか、エピソードとともにご紹介いただきます。

また、飛鳥Ⅱでの展示については、「日本の伝統工芸は自然の素材と共存してきた大切なものですが、一般の方にはまだまだ知られていません。クルーズ船での展示によって、多くの方に身近なものに感じてもらえたのではないのでしょうか」と、手応えを感じていらっしゃる。

人間国宝の作品など約35点を展示 能登半島地震の復興にも一役

開催された「日本工芸会×飛鳥クルーズ作品展」では、その飛鳥Ⅱで国内外をクルーズしてきた、日本工芸会所属の作家の作品が展示販売されました。作品は、陶芸の人間国宝である十四代今泉今右衛門氏、博多人形の名工として知られる中村信喬氏の作品など、約35点が集まりました。この展示会での売り上げの一部は、今年1月1日に起きた「能登半島地震」によって大きな被害を受けた輪島塗復興のための寄附に充てられます。

今泉氏は講演会の中でも、「輪島塗の工房は全焼や全壊と、壊滅的な状況です。そのような中でも瓦礫の中から道具を取りだすなど、少しでも伝統を残そうと奮闘されています。輪



日本工芸会作品展に展示された作品



日本工芸会作品展に展示された作品

島塗は輪島で作らなければ意味がなく、このままでは途絶えてしまいます」。発災後、懇意にされている輪島塗の作家の先生に連絡を取って、支援を申し出られたそうです。「技術は残っています。一からのスタートになるかもしれないが、技術の継承のためにも何かお手伝いできればと思っています」と、熱く語られました。

FFGは今後も、伝統工芸の継承と発展への支援を通じたSDGsの目標達成を目指し、伝統工芸と地域のお客さまをつなぐことで、社会貢献を続けてまいります。

十四代今泉今右衛門 Profile

1962年、佐賀県有田町に生まれ、父・十三代今右衛門の許、家業に従事しながら数々の賞を受賞する。2002年に十四代今泉今右衛門を襲名、「色鍋島今右衛門技術保存会」の会長となり色鍋島の代々の仕事を継承。2014年には、重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定される。江戸期からある染付の中に白抜き文様を作るときに用いる「墨はじき」と呼ばれる技法に着目し、

「藍色墨はじき」「墨色墨はじき」、更には墨はじきを重ねていく「層々墨はじき」、微妙な白の雰囲気「雪花墨はじき」と意欲的に作品づくりに励み、品格の高い、現代の色鍋島をいかに創出するかという仕事に挑み続けている。



日本工芸会作品展に展示された作品

日本の文化や地域の魅力を 「飛鳥クルーズ」を通じて発信

アンカー・シップ・パートナーズは、「我が国の海運と金融をつなぐ」という考えの基、多くの船舶への投資実績を誇る船舶投資ファンド運営会社です。

「飛鳥クルーズ」を運行する郵船クルーズ株式会社的主要株主でもあり、「飛鳥クルーズ」を通じた日本の文化や地域に根差した魅力の発信にも積極的に取り組んでいます。2025年に就航予定の「飛鳥Ⅲ」でも、その取り組みを一層加速させていく予定です。

その一つがクルーズ客船「飛鳥Ⅲ」アート公募展。本公募展は、2025年に就航する「飛鳥Ⅲ」の船内に約2年間常設展示する絵画・写真を、年齢や国籍、受賞歴などに関係なく、「日本の四季を旅する」というテーマで、一般の方々から広く公募するものです。

応募作品は、「飛鳥Ⅲ」に作品を展示する

日本画家の平松礼二氏、土屋禮一氏、千住博氏、洋画家の田村能里子氏、漆芸家で人間国宝の室瀬和美氏のほか、海洋写真家の中村庸夫氏、飛鳥クルーズアンバサダーの小山薫堂氏と、いずれも日本の芸術文化を牽引する著名な方々による審査を経て、入選作品を最大127点選定します。入選した作品はすべて船内で展示される予定です。

アンカー・シップ・パートナーズは日本郵船とともに本公募展のメインスポンサーとして協賛しています。

福岡銀行においても、文化芸術の発展に資する本公募展に協賛し、持続可能な社会の実現に向けた支援を行っています。

本公募展への作品の応募に際しては、左ページの広告から特設WEBページで最新情報をご確認ください。

Company Profile

アンカー・シップ・パートナーズ株式会社

所在地	東京都中央区京橋2-2-1 京橋エドグラン 20階
設立	2010年9月
事業内容	船舶投資ファンド運営 アンカー第5号、第4号、第3号、第2号船舶投資 ファンドの運営主体 船舶投資および船舶金融に関するアドバイザリー 業務
代表取締役社長	篠田 哲郎
職員数	27名



会社ホームページは
こちらからどうぞ

創造力を
船出させよう。



クルーズ客船

飛鳥Ⅲ アート公募展

| 応募申込期間 2024.5.22^{WED} - 8.31^{SAT}
• 入選作品127点

2025年に就航する「飛鳥Ⅲ」の船内で常設展示するアートを募集します。
テーマは、「日本の四季を旅する」～あなたの地域の自然の風景～。
多種多様な作品で、インクルーシブな船内アート空間を目指します。
さあ、あなたの作品を「飛鳥Ⅲ」に乗せ、世界中を旅させてみませんか？



グランプリ 1点

副賞 300万円相当

賞金100万円 + 200万円相当の「飛鳥Ⅲ」クルーズペアチケット

準グランプリ 3点

副賞 100万円相当

賞金30万円 + 70万円相当の「飛鳥Ⅲ」クルーズペアチケット

審査員賞 7点

副賞 10万円相当

賞金10万円

審査員
(敬称略・順不同)

平松礼二
フランス芸術文化勲章
シュヴァリエ受贈

土屋禮一
日本藝術院会員

千住博
日本藝術院会員

田村能里子
洋画家・壁画家

室瀬和美
重要無形文化財
「蒔絵」保持者

中村庸夫
海洋写真家

小山薫堂
飛鳥クルーズ
アンバサダー



応募に際しては必ず事前に下記特設WEBページで最新情報をご確認ください。

https://voyage.asukacruise.co.jp/a3art_koubo/

主催：郵船クルーズ株式会社

協賛：日本郵船

Anchor Ship Partners

ARTerrace

株式会社大分銀行

株式会社福岡銀行

株式会社秋田銀行

株式会社クルーズクラブ東京

株式会社広島銀行

株式会社福岡銀行

株式会社北國銀行

TSUBASAアライアンス